

リーディングDXスクール事業

【実践事例】

吉川市立東中学校（埼玉県）

【取組内容③】児童・生徒の日常的な心の変化を捉える心の健康観察のアプリの活用

ねらい

児童・生徒の心身の健康状態を把握することは教職員の務めでもあるが、それを多角的に把握できたら教職員の教務のDXともなる。ICTを活用し、教職のプロの目プラスαの実現に取り組む。さらに得られたデータを有効に活用することで不登校の未然防止から一人ひとりが輝ける学校生活の構築を図る。

子供のサインをいち早く察知

学校外の人・もの・コトと積極的に繋がることができる

情報を適切に活用・編集・発信できる

本取組を通して吉川市が子供たちにつけたい力



自分を肯定し主体的に行動できる

自分や他者の心と体を大切にできる

成果

児童生徒も教職員も日ごろ使い慣れているGoogleフォームを活用し、そのデータを一括に書き出せるシステムは容易に構築、理解、運用が可能であり、朝の会等で簡単に実施できるため負担感も少ない。このデータを定期的に学校が確認し、気になる児童生徒に声がけをしたという事例も増えてきている。また、児童生徒にとっても見てもらえているという安心感にもつながっている。

課題

日々の実施からそのチェックは学校（特に児童生徒の多い学校）にとって新たな負担感が増すことも事実。また、チェックしたデータをどう共有し、次の行動に移すかのシステム構築も大切となってくる。そこで、担任に頼り過ぎずどのレベルから、誰に、自動で通知がいくというシステム進化を目指して、専門家の支援を仰ぎながら、さらなる改善を行うことが必要で動き始めている。